

勤行法則

先懺悔
我昔所造諸惡業
皆由無始貪瞋癡
從身語意之所生
一切我今皆懺悔

明治
39 4 9
内交

次三歸

三反

弟子某甲 盡未來際

歸依佛 歸依法 歸依僧

次三竟

三反

弟子某甲 盡未來際

歸依佛竟 歸依法竟 歸依僧竟

次十善戒

三反

弟子某甲 盡未來際

不殺生 不偷盜 不邪淫 不妄語
不綺語 不惡口 不兩舌 不慳貪
不瞋恚 不邪見

次發菩提心真言

三反

唵冒地質多母怛波那野彌

次三摩耶戒真言

三反

唵三昧耶薩怛釁

在家勤行法則

先懺悔文

我昔所造諸惡業 皆由無始貪瞋癡
從身語意之所生 一切我今皆懺悔

明治 39 4 9 内交

次三歸

三反

弟子某甲

盡未來際

歸依佛

歸依法

歸依僧

次三竟

三反

弟子某甲

盡未來際

歸依佛竟

歸依法竟

歸依僧竟

次十善戒

三反

弟子某甲

盡未來際

不殺生 不偷盜 不邪淫 不妄語
不綺語 不惡口 不兩舌 不慳貪
不瞋恚 不邪見

次發菩提心真言

三反

唵冒地質多母怛波那野弭

次三摩耶戒真言

三反

唵三昧耶薩怛鏘

次發菩提心眞言

三反

唵冒地質多母怛波那野弭

次三摩耶戒眞言

三反

唵三昧耶薩怛鑠

次光明眞言

廿一反或或百反千反

唵 阿 彌 陀 佛 摩 訶 訶 囉 囉 蜜 多 心 經

次高祖寶號

七反

南無大師遍照金剛

南無聖寶理源大師

南無興教大師

但し經陀羅尼及び和讃等隨意加唱
することもあるべし

佛說摩訶般若波羅蜜多心經

觀自在菩薩深般若波羅蜜多行。玉ふ時に五
蘊皆空と照見して一切の苦厄を度し玉ふ舍利
子色は空に異らず空は色に異らず色即ち是れ
空空即ち是れ色なり受相行識も亦復是の如し

舍利子是の諸法は空相なり生ぜず滅せず垢れ
ず淨らず増ぜず減ぜず是の故に空中には色も
無く受相行識も無く眼耳鼻舌身意も無く色聲
香味觸法も無く眼界も無く乃至意識界も無く
無明も無く亦無明の盡ること無く乃至老死

も無く亦老死の盡ること無く苦集滅道も無
く智も無く亦得も無し所得無さと以ての故に
菩提薩埵般若波羅蜜多に依るか故に心に罣礙
無し罣礙無さ故に恐怖有ること無し一切の
顛倒夢想を遠離して涅槃を究竟す三世の諸佛

も無く亦老死の盡ること無く苦集滅道も無く智も無く亦得も無し所得無きと以ての故に菩提薩埵般若波羅蜜多に依るか故に心に罣礙無し罣礙無き故に恐怖有ること無し一切の顛倒夢想を遠離して涅槃を究竟す三世の諸佛

般若波羅蜜多に依るが故に阿耨多羅三藐三菩提を得故に知ぬ般若波羅蜜多は是大神呪なり是大明呪なりは無上呪なりは無等等呪なり能く一切の苦と除き眞實にして虚ならず故に般若波羅蜜多の呪と説く即ち呪を説て曰く

偈 波羅偈 波羅偈 波羅偈 波羅偈

菩提娑婆賀 般若心經

次法身偈

諸法從緣生 如來說是因 是法從緣滅 是大沙門説

次

般若心經秘鍵 井序

文殊利劍絶諸戲

眞言爲種子

無邊生死何能斷

尊者三摩仁不讓

遍照金剛撰

覺母梵文調御師

含藏諸教陀羅尼

唯有禪那正思惟

我今讚述垂哀悲

般若心經秘鍵 井序

遍照金剛撰

文殊利劍絕諸戲

覺母梵文調御師

以眞言爲種子

含藏諸教陀羅尼

無邊生死何能斷

唯有禪那正思惟

尊者三摩仁不讓

我今讚述垂哀悲

夫れ佛法遙なるに非ず心中にして即ち近し眞

如外に非ず身を棄て、何くんか求めん迷悟我

に在れば即ち發心すれば即ち到る明暗他に非

れば則ち信修すれば忽ちに證す哀なるかな長

眠の子苦いかな痛ひかな狂醉の人痛狂は醉は

ざるを笑ひ酷醉は覺者を嘲る曾て醫王の藥を

訪はずんば何れの時か大日の光を見ん翳障の

輕重覺悟の遲速の如きに至りては機根不同な

れば性欲も即ち異なり遂とて二教轍を殊に

して手と金蓮の場に分ち五乘鏝を並べて蹄を

幻影の埒に腕かす其解毒に隨て藥を得ること

即ち別なり慈父導子の方大綱此れに在りや。

大般若波羅蜜多心經と謂ッは即ち是れ大般若

菩薩の小心眞言三摩地の法門なり文は一紙に

欠て行は即ち十四なり謂ふべし簡にして要な

り約かにして深し五藏の般若は一句に喩で飽

ず七宗の行果は一行に猷で足す觀在薩埵は諸

乗の行人を擧げ度苦涅槃は則ち諸教の得樂を

塞ぐ五蘊は横に迷境を指し三佛は豎に悟心と

示す色空と言へば則ち普賢願と圓融の義に解

り約かにして深し五藏の般若は一句に喩で飽
ず七宗の行果は一行に猷で足す觀在薩埵は諸
乗の行人を擧げ度苦涅槃は則ち諸教の得樂を
塞ぐ五蘊は横に迷境を指し三佛は豎に悟心と
示す色空と言へば則ち普賢願と圓融の義に解

き不生と談ずれば則ち文殊顏を絶戲の觀に
破る之を識界に説けば簡持手を拍ち之を境智
に泯ずれば歸一心を快くす十二因縁は生滅を
麟角に指し四諦の法輪は苦空と羊者に驚かす
况や復た𠵼𠵼の二字は諸藏の行果を呑み𠵼𠵼

の両言は顯密の法教を孕めり一一の聲字は歴
劫の談にも盡さず一一の名實は塵滴の佛も極
め玉ふこと無し是の故に誦持講供すれば則ち
拔苦與樂し修習思惟すれば則ち得道起通す甚
深の稱誠に宜く然るべし余童と教るの次で

に聊か綱要を撮で彼の五分を釋す釋家多しと
雖も未だ此の幽を釣らず翻譯の同異顯密の差
別竝に後に釋するが如し或る人問ふて云く般
若は第二未了の教なり何を能く三顯の經と吞
まん如來の説法は一字に五乗の義を含み一念

に三藏の法を説く何に況んや一部一品何を置
しく何を無からん龜卦交著萬象と含て盡くる
こと無く帝綱聲論諸義を吞で窮らず難者の曰
く若し然らば前來の法匠何を斯の言と吐かざ
ると答ふ聖人の藥を投ぐることを機の深淺に隨

に三藏の法を説く何に況んや一部一品何を置
しく何を無からん龜卦爻著萬象と合て盡くる
こと無く帝綱聲論諸義を吞で窮らず難者の曰
く若し然らば前來の法匠何を斯の言と吐かざ
ると答ふ聖人の藥を投ぐることに機の深淺に隨

ひ賢者の説默は時と待ち人と待つ吾れ未だ知
らず蓋し言ふべきを言はざるか言ふまじけれ
ば言はざるか言ふまじきと之と言へらん失
智人斷り玉へ而已

佛說摩訶般若波羅蜜多心經と者此の題額に就
て二の別あり梵漢別なるか故に今佛說摩訶般
若波羅蜜多心經と謂つ者胡漢雜へ擧げたり説
心經の三字は漢名なり餘の九字は胡號なり若
し具なる梵名ならば 𑖀𑖡𑖦𑖫𑖞𑖡𑖪𑖣𑖹𑖞𑖩
𑖞𑖩𑖣𑖹𑖞𑖩 𑖞𑖩𑖣𑖹𑖞𑖩 𑖞𑖩𑖣𑖹𑖞𑖩 𑖞𑖩𑖣𑖹𑖞𑖩
𑖞𑖩𑖣𑖹𑖞𑖩 𑖞𑖩𑖣𑖹𑖞𑖩 𑖞𑖩𑖣𑖹𑖞𑖩 𑖞𑖩𑖣𑖹𑖞𑖩

者の名次の二字は密藏を開悟し甘露を施すの
稱なり次の二字は大多勝に就て義を立つ次の
二字は定惠に約して名を樹つ次の三つは所作
已辯に就て號となす次の二つは處中に據て義
を表はす次の二つは貫線攝持等を以て字と顯

す若し摠の義を以て説かば皆人法喩を具す斯
れ則ち大般若波羅蜜多菩薩の名なり即ち是れ
人なり此の菩薩に法曼荼羅眞言三摩地門を具
す一一の字は即ち法なり此の一一の名は皆世
間の淺名を以て法性の深號を表す即ち是れ喩

す若し摠の義を以て説かば皆人法喩を具す斯
れ則ち大般若波羅蜜多菩薩の名なり即ち是れ
人なり此の菩薩に法曼荼羅眞言三摩地門を具
す一一の字は即ち法なり此の一一の名は皆世
間の淺名を以て法性の深號と表す即ち是れ喩

なり此の三摩地門は佛鷲峰山に在して鷲子等
の爲に之を説き玉へり此の經に數の翻譯あり
第一に羅什三藏の譯今の所説の本是なり次に
唐の遍覺三藏の翻には題に佛說摩訶の四字無
し五蘊の下に等の字を加へ遠離の下に一切の

字と除く陀羅尼の後に功能無し次に大周の義
淨三藏の本には題に摩訶の字と省き眞言の後
に功能を加へたり又法月及び般若兩三藏の翻
には竝に序分流通有り又陀羅尼集經の第三の
卷きに此の眞言法を説けり經の題羅什と同一

般若心と言は此菩薩に身心等の陀羅尼あり是
の經の眞言は即ち大心呪なり此心眞言に依て
般若心の名を得或る人は云く大般若經の心要
を略出するか故に心と名く是れ別會の説にあ
らずと云云謂もる龍に蛇の鱗有るが如し此の

經に摠て五分有り第一に人法摠通分觀自在と
云ふより度一切若厄に至るまで是なり第二に
分別諸乘分色不異空と云ふより無所得故に至る
まで是なり第三に行人得益分菩提薩埵と云ふ
より三藐三菩提に至るまで是なり第四摠歸持

經に摠て五分有り第一に人法摠通分觀自在と云ふより度一切若厄に至るまで是なり第二に分別諸乗分色不異空と云ふより無所得故に至るまで是なり第三に行人得益分菩提薩埵と云ふより三藐三菩提に至るまで是なり第四摠歸持

明分故知般若と云ふより眞實不虛に至るまで是れなり第五に秘藏眞言分陀訶訶と云ふより齊乃至るまで是れなり第一の人法摠通分に五あり因行證入時是なり觀自在と云は能行の人なり即ち此人は本覺の菩提を因と爲す深

般若は能所觀の法即ち是れ行なり照空は則ち能證の智度苦は則ち所得の果果は即ち入なり彼の教に依る人の智無量なり智の差別に依て時亦た多し三生三劫六十百妄執の差別是れを時と名く頌に曰く

觀人修智慧

深照五衆空

歴劫修念者

離煩一心通

第二分別諸乗分に亦五あり建絶相二一是なり初に建と者謂ゆる建立如來の三摩地門是なり色不異空と云ふより亦復如是に至るまで是なり

建立如來と者即ち普賢菩薩の秘號なり普賢の圓因は圓融の三法と以て宗と爲すか故に以て之に名く又是れ一切如來の菩提心行願の身なり頌に曰く

色空本不二

事理元來同

建立如來と者即ち普賢菩薩の秘號なり普賢の
圓因は圓融の三法と以て宗と爲すか故に以て
之に名く又是れ一切如來の菩提心行願の身
なり頌に曰く

色空本不二

事理元來同

無礙融三種

金水喻其宗

二つに絶と者謂もる無戲論如來の三摩地門是
なり是諸法空相と云より不増不減に至るまで
是なり無戲論如來と言即ち文殊菩薩の密號な
り文殊の利劍は能く八不を揮て彼妄執の心と
絶乎是の故に以て名く頌に曰く

八不絶諸戲

文殊是彼人

獨空畢竟理

義用最幽眞

三に相と者謂ゆる摩訶梅多羅胃地薩怛縛の三
摩地門是なり是故空中無色と云より無意識

界に至るまでは是なり大慈三昧は與樂を以て宗
となす因果を示すを誠となす相性別論し唯識
境を遮す心只此れにありや頌に曰く

二我何時斷

三祇證法身

阿陀是識性

幻影即名賓

四に二と者唯蘊無我拔業因種是なり是れ即ち
二乗の三摩地門なり無無明と云ふより無老死
盡に至るまで即ち是れ因緣佛の三昧なり頌に
曰く

風葉知因緣

輪廻覺幾年

四に二と者唯蘊無我拔業因種是なり是れ即ち
二乗の三摩地門なり無無明と云ふより無老死
盡に至るまで即ち是れ因縁佛の三昧なり頌に
曰く

風葉知因縁

輪廻覺幾年

露花除種子

羊鹿號相連

無苦集滅道是れ此一句五字は即ち依聲得道の
三昧なり頌に曰く

白骨我何在

青瘀人本無

吾師是四念

羅漢亦何虞

五に一と者阿哩也嚩路枳帝冒地薩怛嚩の三摩
地門なり無智と云ふより無所得故に至るまで
是なり此の得自性清淨如來は一道清淨妙蓮
不染を以て衆生に開示して其若厄を抜く智は
能達を擧げ得ば所證に名く既に理智と混ずれ

ば強ちに一の名を以てす法華涅槃等の攝末歸
本の教唯た此の十字に含めり諸乗の差別智者
之を察せよ頌に曰く

觀蓮知自淨

見菓覺心徳

一道泯能所

三車即歸默

第三行人得益分に二あり人法是なり初の人に
七あり前の六後の一なり乗の差別に隨て薩埵
に異あるか故に又薩埵に四あり愚識金智是な
り次に又法に四あり謂く因行證入なり般若は
即ち能因能行無尋離障は即ち入涅槃能證の覺

五いつに一いつと者いつ阿哩也や嚩路枳き帝てい冒地ぼ薩恒さ嚩の三さん摩ま
地門ぢもんなり無智むちと云いふより無所得むじやく故こに至いたるまで
是これなり此この得とく自性じやうしやう清淨しやうじゆん如來には一道いちどう清淨しやうじゆん妙蓮みやうれん
不染ふせんを以もつて衆生しゆじやうに開示かいじして其その若厄やくを拔ぬく智ちは
能達のうたつを舉あげ得とくは所證しよじやうに名なづく既すでに理智りちと泯みんずれ

ば強あなちに一いつの名なを以もつてす法華ほつげ涅槃ねはん等の攝せう未歸まつき
本の教ほん唯をしへた此この十字じうじに含ふくめり諸乘しよじやうの差別さべつ智者しや
之これを察さつせよ頌しやうに曰いはく

觀蓮くわんれん知自淨ちじゆん 見葉覺けんえかく心德しんとく

一道いちどう泯能所みんねうじゆ 三車さんしや即歸默じやくきよく

第三行人だいさんぎん得益分とくぎふんに二ふたあり人法にんぽう是これなり初はじめの人にんに
七ななあり前まいの六後むつのちの一ひとなり乘しやうの差別さべつに隨したがつ薩埵さつた
に異いあるか故ゆへに又また薩埵さつたに四よつあり愚識ぐしき金智こんち是これな
り次つぎに又また法ほうに四よつあり謂いはく因行證入いんぎやうしやうにうなり般若はん若にやは
即すなはち能因能行のういんのうぎやう無導離障むどうりしやうは即すなはち入涅槃能證にうねはんのうしやうの覺かく

智は即ち證果なり文の如く思知せよ頌に曰く

行人數是七 重二彼之法

圓寂將菩提 正依何事乏

第四の總歸持明分に又三あり名體用なり四種の呪明は名と擧げ眞實不虛は體を指し能除諸

苦は用を顯す名を擧ぐる中に初の是大神呪は

聲聞の眞言二は緣覺の眞言三は大乗の眞言四

は秘藏の眞言なり若し通の義を以ていはゞ一

一の眞言に皆四名を具す略して一隅を示す圓

智の人三即歸一せよ頌に曰く

惣持有文義 忍呪悉持明

聲字與人法 實相具此名

第五秘藏眞言分に五あり初のハクハは聲聞の行

果を顯す二のハクハは緣覺の行果を擧げ三のハク

ハクハは諸大乘最勝の行果を指し四のハクハクハ

は眞言曼荼羅具足輪圓の行果を明し五のハクハ

ハクハは上諸乘究竟菩提證入の義と説く句義是

の如し若し字相の義等に約して之れを釋せば

無量の人法等の義有り劫を歴ても盡くし難し

要聞の者は法に依て更に問へ頌に曰く

眞言不思議 觀誦無明除

一字含千理 卽身證法如

行行至圓寂 去去入原初

三界如客舍 一心是本居

問と陀羅尼は是れ如來の祕密語なり所以に古

眞言不思議

觀誦無明除

一字含千理

卽身證法如

行行至圓寂

去去入原初

三界如客舍

一心是本居

問ふ陀羅尼は是れ如來の祕密語なり所以に古

の三藏諸の疏家皆口を閉ち筆を絶つ今ま此

の釋を作る深く聖旨に背けり如來の說法に二

種あり一には顯二には祕顯機の爲めには多名

の句を説き祕根の爲には惣持の字と説く是故

に如來自ら文字字等の種々の義を説き玉へ

り是れ則ち祕機の爲めに此の説をなす龍猛無

畏廣智等も亦其の義と説き玉へり能不の間教

機に在るのみ之と説き之れと黙する並に佛意

に契へり問顯密二教其旨天に懸なり今此の顯

經の中に祕義を説く不可なり醫王の目には途

に觸れて皆藥なり解寶の人は礦石を寶と見

る知ると知らざると何誰か罪過を又此の尊の

眞言儀軌觀法は佛金剛頂の中に説き玉へり此

れ祕か中の極祕なり應化の釋迦は給孤園に在

まして菩薩天人の爲に畫像壇法眞言手印等と

説き玉ふ亦是れ祕密なり陀羅尼集經の第三の

卷是なり顯密は人に在り聲字卽ち非なり然と

も猶は顯か中の祕秘か中の極祕なり深淺重々

ならん耳

我依祕密眞言議

略讚心經五分文

説き玉ふ亦是れ秘密なり陀羅尼集經の第三の
卷是なり顯密は人に在り聲字即ち非なり然と
も猶は顯か中の秘密か中の極秘なり深淺重々
ならん耳

我依秘密眞言議 略讚心經五分文

一字一文遍法界 無終無始我心分

翳眼衆生盲不見 曼儒般若能解紛

灑期甘露霑迷者 同斷無明破魔軍

般若心經秘鍵

于時弘仁九年の春天下大疫す爰に帝皇自ら黃
金を筆端に染め紺紙を爪掌に握て般若心經一
卷を書寫し奉り玉ふ予講讀の撰に範て經旨の
宗を綴る未だ結願の詞を吐かざるに蘇生の族
ら途にたたつむ夜變じて日光赫々たり是愚身

か戒徳に非ず金輪の御信力のなす所なり但し
神舎に詣せん輩は此秘鍵を誦どたてまつるべ
し昔し予鷲峰說法の筵に陪て親り是の深文
を聞さつ豈其の義に達せざらんやのみ

入唐沙門 空海 上表

光明眞言品

(金剛頂經光明眞言品)

大興善寺三藏沙門大廣智不空奉詔譯

爾時に大日如來諸の菩薩と一切の天人大衆と
に告げ玉く我今未來の一切の諸の行人法者の
爲に此の光明眞言の法要と説かん汝ら大衆當

光明眞言品

(金剛頂經光明眞言品)

大興善寺三藏沙門大廣智不空奉詔譯

爾時に大目如來諸の菩薩と一切の天人大眾とに告げ玉く我今未來の一切の諸の行人法者の爲に此の光明眞言の法要と説かん汝等諸大衆當

に聽くべし我今次第に汝等が爲めに演説すべし若し無量百千萬億の衆生ありて諸の苦惱災惡を受けんに此の眞言祕密神呪を聞いて而も受持することを得ば必ず無量の苦惱災惡を滅除し福壽を増長して安穩快樂を蒙むらしめ

ん若し一切衆生ありて此の光明の呪を聞く事を得ば必ず無始輪廻の生死の重罪を滅除して如來の界會に入ることを得現前にして而も無量無邊の福德と増長することを得ん大方の魔軍を摧伏して勝利を得んがための故に怨賊と

降伏して慈愛の心と成ぜんがための故に一切の邪道を除きて正覺菩提を成ぜんがための故に一切の怖畏と除て歡喜を得んがための故に一切の障難を除て安穩と得んがための故に貧窮を除て富饒を得んがための故に下賤を除て

高貴と得んが爲の故に鈍根と除て利根を得んがための故に愚癡と除て智慧と得んが爲の故に無量の辯才と得んがための故に自然の福德と得んがための故に一切の自在を得んが爲の故に一切の所願を満足することを得んがため

高貴を得んが爲の故に鈍根と除て利根を得んがための故に愚癡と除て智慧を得んが爲の故に無量の辯才を得んがための故に自然の福德を得んがための故に一切の自在を得んが爲の故に一切の所願を満足することを得んがため

の故に此の光明眞言を説く即ち呪と説て曰く
唵阿謨伽尾盧遮耶摩訶胃陀羅摩尼婆頭摩蘇縛羅婆羅婆唎陀耶吽。 婆吒蘇婆訶

此の秘密眞言呪はこれ萬億無數の諸佛如來の心中の秘密呪なりこの眞言神呪を誦持すれば

即ち萬億無數の諸佛如來歡喜したまふこれ大日如來と阿彌陀如來と阿耨多羅三藐三菩提の如來の心中の神呪なり一遍を誦すれば百萬無量の大乗經百萬無量の尼羅尼百萬無量の法門を誦じ了る其功德よりも最勝なりとす此れ大日如來の肝心

の秘密呪なり三世三劫の一切の諸佛此の眞言呪を誦持する力に由て速かに正覺を成ずることを得この大神呪は是れ百億無數の諸佛如來の母百億無數の菩薩聖衆の母なり是れ大明呪なり是れ無上呪なり是れ無等々呪なり是れに

依りて光明眞言と名づくこれ釋迦如來常恒に恭敬し禮拜し給ふ昔し忍辱仙人の行と修し給ふ間にも常に此の眞言呪を誦し給ひき此時に頂より百千の光明を出現し三千大千世界を照曜して正覺を成ト玉ふ故に光明眞言と名づく

依りて光明眞言と名づくこれ釋迦如來常恒に
恭敬し禮拜し給ふ昔し忍辱仙人の行と修し給
ふ間にも常に此の眞言呪を誦し給ひき此時に
頂より百千の光明を出現し三千大千世界を照
曜して正覺を成す玉ふ故に光明眞言と名くこ
れ五智の如來非我の身を現す頂より各々百千
の火燿を放出して魔王の軍類を燒滅し並に魔
王の宮を燒滅しき時に魔王衆類を引て皆摧滅
し五智の如來の爲めに各論を成じ了んぬ時に
即ち此百千の火燿の光明に依りて三千大千世
界の中の惡道黑暗の處地獄一切の惡趣苦の處
この百千の火燿の光明に照されて皆悉く甚明
に成り了りぬ此光明の力に依りて地獄餓鬼畜
生阿修羅等皆悉く惡趣と解脱して速かに正覺
と成ずることを得たりき故に光明眞言と名く

此故に一切の諸の行人智者常に此眞言を受持
し讀誦すべし一切の天神地祇一切の靈鬼等成
佛の大因縁なり爾時に大日如來光明大甚深の
密言を讚して言はく初に唵阿謨伽と云はこれ
三身萬德の如來の心中の密言なり次に尾盧遮

那とはこれ其の如來の眞實明の句言なり次に
摩訶穆陀羅摩尼婆頭摩と云は四攝智菩薩等の
心中の密言なり次に蘇婆羅婆羅婆唎陀耶とは
是れ三世三劫の一切の諸佛如來一切の菩薩等
の心中の密言なり次に吽婆吒と云は此れ大日

那のうとはこれ其そのの如來にょらいの眞實明しんじつみやうの句言くげんなり次に
摩訶まか穆陀ぼだ羅摩らま尼婆頭にほんごま摩まと云いは四攝せつち智菩薩ちぼつさつ等の
心中しんちゆうの密言みつごんなり次に蘇婆羅婆羅すわらばら唎陀耶らいたやとは
是れ三世せ三劫さんごうの一切さいの諸佛しよぶつ如來にょらい一切さいの菩薩ぼつさつ等
の心中しんちゆうの密言みつごんなり次に吽婆吒うんばつたと云いは此れ大日だいにち
如來にょらいと阿彌陀あみだ如來にょらいとの大神力だいじんりき威猛みうたい大勢力たいせいきの密
言ごんなり地獄ぢごくを破裂はれつして淨土じやうどを成なす句言くげんなり次
に蘇婆訶そわかと云いは此れ大菩提だいぼだいの果くわを證得しやうとくする句
言げんなり此眞言このしんごんを誦持じゆぢする者は常つねに淨じやうと不淨ふじやうと
を選えらぶべからず一切さいの穢惡ゑあくに障滯しやうたいすべからず

常つねに間斷かんたんすべからず此眞言このしんごんを誦持じゆぢするものは
一切さいの天神てんじん地祇ぢぎ靈鬼れいき等とう悉く歡喜くわんぎと悅可ゑつかする所
なるが故ゆへに大福德たいふくどくを蒙かふひるが故ゆへに常つねに誦持じゆぢす
べし若し大智慧だいぢゑを得えんと欲ほつせば東方とうほうに向つて
十萬遍じうまんべんを誦じゆぜは必ず大智慧だいぢゑを得えん若し辯才べんさいを

得えんと欲ほつせば東方とうほうに向つて二十萬遍まんべんを誦じゆせば
必ず辨才べんさいを得えん若し貴人きじんの愛敬あいぎやうを得えんと欲ほつせ
ば東方とうほうに向つて三十萬遍まんべんを誦じゆせよ若し一切さいの
上下じやうげ諸人しよじんの愛敬あいぎやうを得えんと欲ほつせば西方さいほうに向つて
四十萬遍まんべんを誦じゆせよ若し長壽ちやうじゆを得えんと欲ほつせば東

方ほうに向つて五十萬遍まんべん乃至百萬遍ひやくまんべんを誦じゆせよ必ず
長壽ちやうじゆ福樂ふくらくを得えん死者ししやの爲ために此眞言このしんごん一遍べんを誦じゆ
せば必ず阿彌陀あみだ如來にょらい死者ししやの爲ために手みてを授さづけて
極樂淨土ごくらくじやうどに引導いんごうし給たまふ況いわんや七遍へん若くは十遍べん
二十遍にじふべんと誦持じゆぢせん功德くどく更に量はかるべからず若し

方ほうに向むかつて五十萬遍まんべん乃至いしひやくまんべん百萬遍ひやくまんべんを誦じゆせよ必ずかなら長壽福樂ちやうじゆふくらくを得えん死者ししやの爲ために此眞言このしんごん一遍べんを誦じゆせば必ずかなら阿彌陀あみだ如來にらいし死者ししやの爲ために手てを授さづけて極樂淨土ごくらくじやうどに引導いんぎやうし給たまふ況いわんや七遍へん若もしくは十遍べん二十遍べんと誦じゆ持ぢせん功德くどく更さらに量はかるべからず若もし

墓處ぼしょに於おて四十九遍へんを誦じゆすれば必ずかなら阿彌陀あみだ如來にらいしの靈れいを荷負かふし決定けつじやうして極樂淨土ごくらくじやうどに往生わうじやうせしむ若もしし孝子かうし一切いっさいの人ひとありて率都婆そとばを安置あんちし奉たてまつり父母ふぼの墓處ぼしょと建立こんりやうせば無量億劫むりやうたくりやくを經へて其靈地獄惡趣そのれいちぢよくあくしゆに隨たせず蓮華座れんげざの上うゑに化生けしやうせ

胎生たいじやうの身みを受けず邊地下賤へんちげせんに生しやうぜず所生しよしやうの處ところに常つねは極樂淨土ごくらくじやうどの佛前ぶつぜんの蓮華れんげに生しやうぜん若もし此光明このくわうみやうしんごん眞言しんごんを誦じゆ持ぢする法師ほつしありて其身そのみに吹ふき宛あてん風來かせきたりて一切衆生類さいしゆじやうるいの身みに觸ふるれば皆悉みなことごとくく苦果くくわを解脫げだつして一切佛地さいぶつちの界會かいゑに入いら

並ならびに禽獸異類きんじゆいりふの畜生ちくじやうの業ごふを脱のがれて皆悉みなことごとくく人にん天てんの果くわを證得しやうとくせん若もしし死者ししやの靈れいありて惡道あくじやうに隨たせず惡道あくじやうを助救じよぐする度苦どくの法ほうと説とくべし地獄餓鬼道ごくがきじやうに隨たせば戌亥いぬゐの方かたに向むかつて四十九遍へんを誦じゆせよ餓鬼等がきとうの苦くを免のがれて極樂ごくらくに往生わうじやうす畜

生道しやうじやうに隨たせば丑寅うしごらの方かたに向むかつて四十九遍へんと誦じゆせよ畜生道ちくじやうじやうの苦くを免まぬがれて極樂ごくらくに往生わうじやうせん阿修羅道あしゆらじやうに隨たせば辰巳たつみの方かたに向むかつて四十九遍へんを誦じゆせよ阿修羅あしゆらの苦くを免まぬがれて極樂ごくらくに往生わうじやうせん若もし人中にんちゆうの樂處らくじよに生しやうぜんと欲ほつせば未申ひつじさるの方かたに向むかつ

生道しやうどうに隨たせば丑寅うしごらの方かたに向むかつて四十九遍へんと誦じゆせよ畜生道ちくしやうどうの苦くるを免まぬがれて極樂ごくらくに往生わうじやうせん阿修羅道あしゆらどうに隨たせば辰巳たつみの方かたに向むかつて四十九遍へんを誦じゆせよ阿修羅あしゆらの苦くるを免まぬがれて極樂ごくらくに往生わうじやうせん若もし人中にんちゆうの樂處らくじよに生しやうぜんと欲ほつせば未申ひつじさるの方かたに向むかつて四十九遍へんを誦じゆせよ四十九遍へんを誦じゆせよ必ず人中にんちゆうの樂處らくじよに生しやうぜん若もし天上てんじやうに生しやうぜんと欲ほつせば天てんを仰あがぎ目を閉とぢて百千遍べんを誦じゆせよ必ず天道てんどうに生うまん若もし父母ふぼの靈れいとして極樂淨土ごくらくじやうどに生しやうぜしめんと欲ほつせば西方さいほうに向むかつて千遍せんべんを誦じゆせよ決定けつせうして極樂淨土ごくらくじやうどに生じやうぜ

ん是故このゆゑに父母ふぼの墓處ぼじよを建立こんりうし眞言しんごんと以もつて阿彌陀あみだ如來にょらいの梵字ぼんじに書副しよふくして父母ふぼの墓處ぼじよに安置あんちせよ必ず彼靈かのれい無量無邊むりやうむへん不可思議かしぎ阿僧祇劫あそうぎこうと經ふると雖いへども惡道あくどうに隨たぜず必ず極樂淨土ごくらくじやうどの蓮華中れんげぢゆうぢの寶座ほうざの上うへに往生わうじやうせしむ成佛じやうぶつの時ときに眉間みけんより白毫ごうの光明くわうみやうを放はなつ故ゆゑに光明眞言くわうみやうしんごんと名なづく若もし衆生しゆじやうあつて耳みみに此眞言このしんごん一遍べんを聞きかば此人このひとは無量億劫むりやうたよくの生死しやうしの重罪じゆうざいを滅除めつじよして大三摩地だいさんまぢを證得しやうじやくせん況いはんや亦またた常つねに誦持じゆぢする人は阿彌陀如來あみだにょらい荷負かふして極樂淨土ごくらくじやうどに生しやうぜしむることを得えん三十

二相八十種好しゆごうの莊嚴しやうごんを具足ぐそくして速すみかに正覺しやうがくと成じやうぜしむ若もし女人にょにんあつて女身にょしんを厭あみ男身なんしんと成ならんと欲ほつして常つねに此眞言このしんごんを誦持じゆぢすれば必ず女人にょにんを轉てんじて男身なんしんと得えん若もし常つねに誦持じゆぢする女人にょにんは大梵天王だいぼんてんわうと成なることを得えん若もし形貌醜陋ぎやうぼうしゆらうの

二相八十種好の莊嚴を具足して速かに正覺と成ぜしむ若し女人あつて女身を厭み男身と成らんと欲して常に此眞言を誦持すれば必ず女人を轉じて男身を得ん若し常に誦持する女人は大梵天王と成ることを得ん若し形貌醜陋の

女人この眞言を誦持すること一萬遍を滿せば必ず端正の形貌と得て世間の諸人のために愛敬せられんこと疑あるべからず若し世間の一切の佛子ありて妄讀妄誦の罪を免れんために此眞言を誦せば妄讀妄誦の罪を免れて必ず如

法清淨に成り了らん爾時に諸の菩薩及ひ一切の天人大衆佛の所説を聞て皆大に歡喜して受信し奉行し上りさ

光明眞言經 終

次廻向

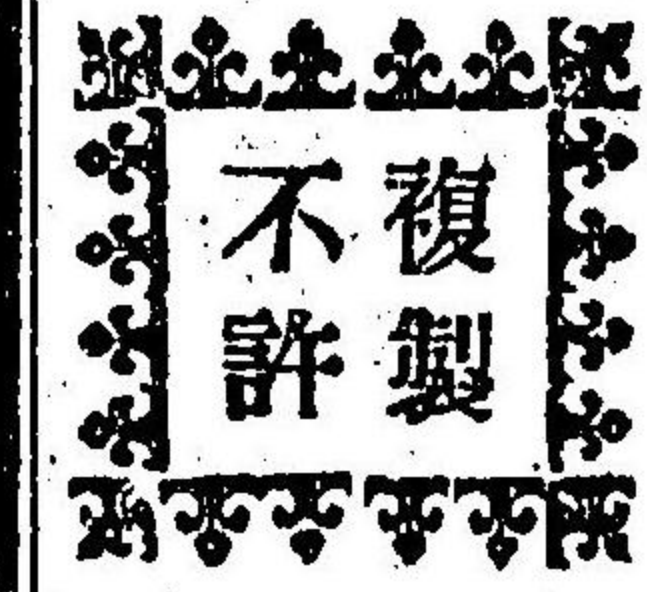
願以此功德 普及於一切
我等與衆生 皆共成佛道

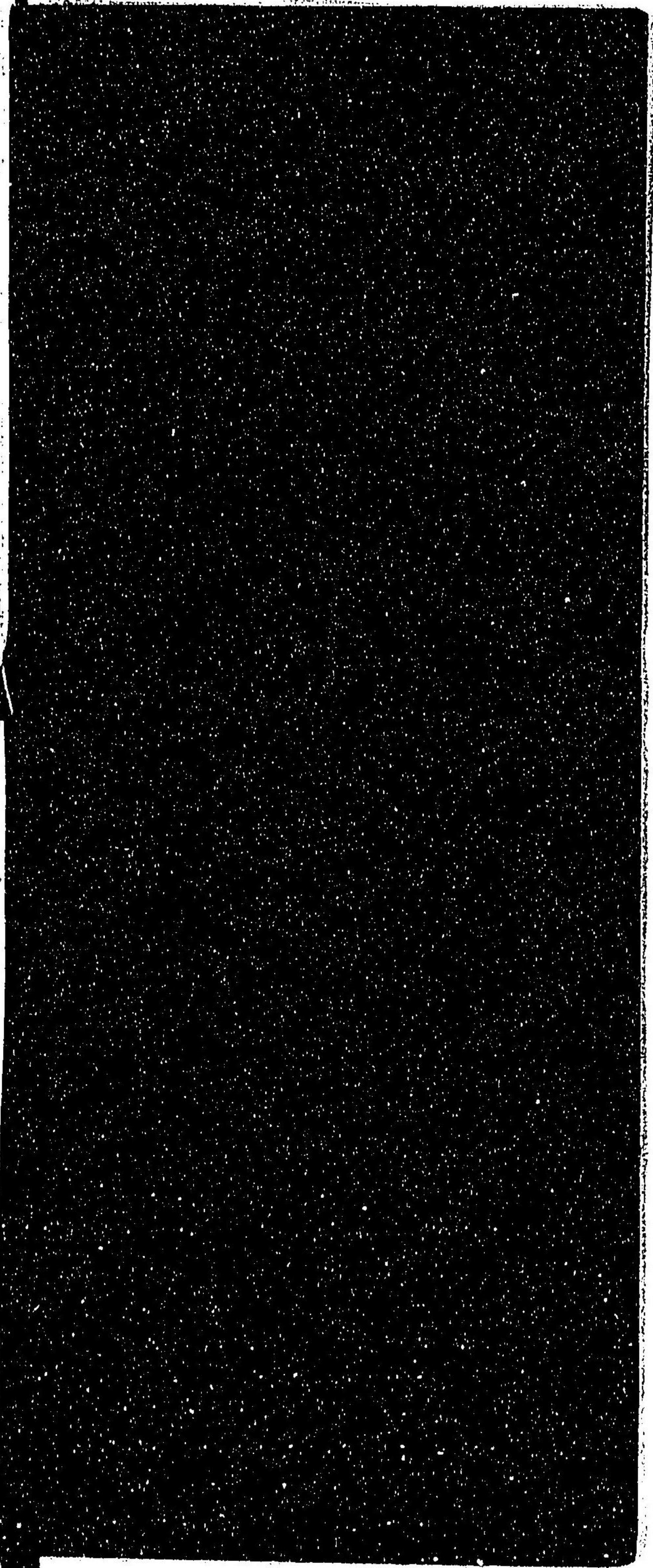
明治三十九年三月卅一日 印刷
明治三十九年四月五日 發行

編纂者 岩城元隨

發行所 京都市寺町通五條上ル西橋詰町二十五番戶

發行兼印刷者 藤井佐兵衛





特55
927

016017-000-7

特55-927

在家勤行集(密教和訓)

岩城 元隨/編

M39.4

ABC-1851

